

観光業

業況、売上、採算

今期（2023.7～9）の業況判断DIは58.6で、前年同期（2022.7～9）と比べ6.1ポイント低下しました。

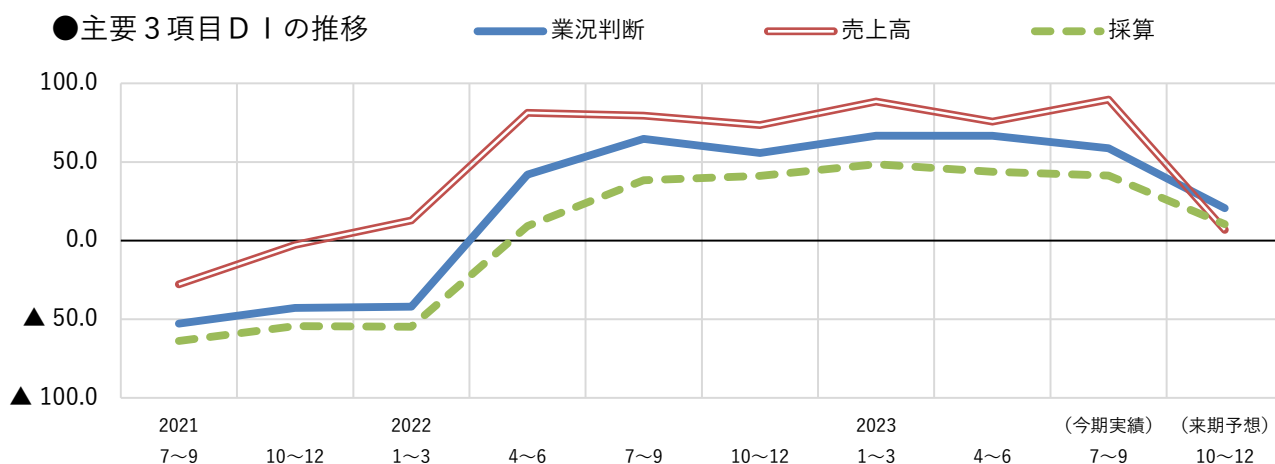
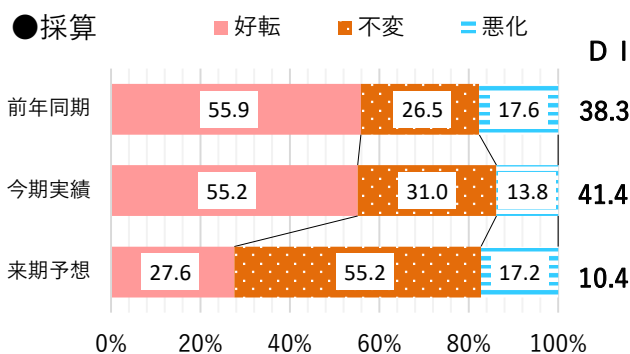
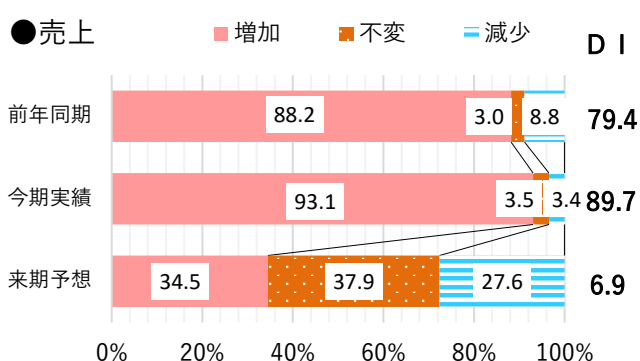
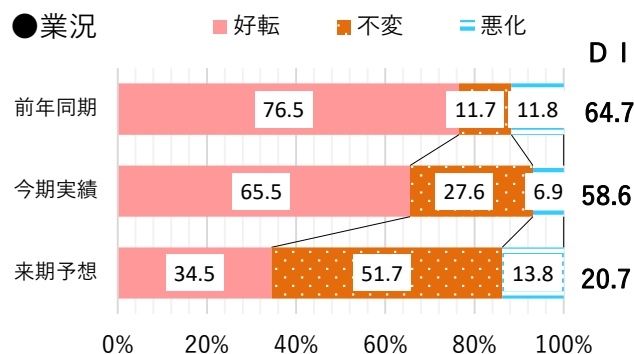
来期（2023.10～12）は、業況の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の売上DIは89.7で、前年同期と比べ10.3ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

今期の採算DIは41.4で、前年同期と比べ3.1ポイント上昇しました。

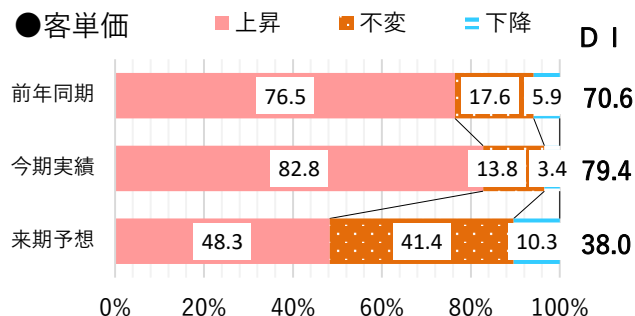
来期は、採算の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

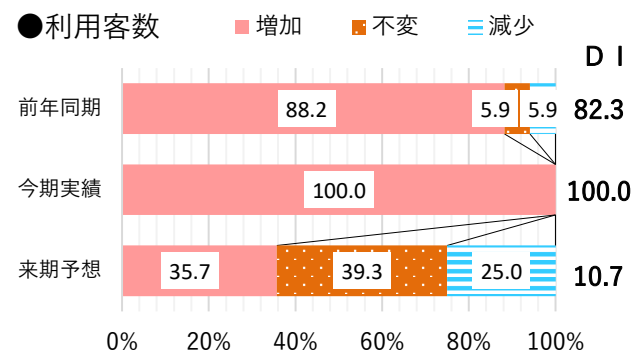
今期の客単価DIは79.4で、前年同期と比べ8.8ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



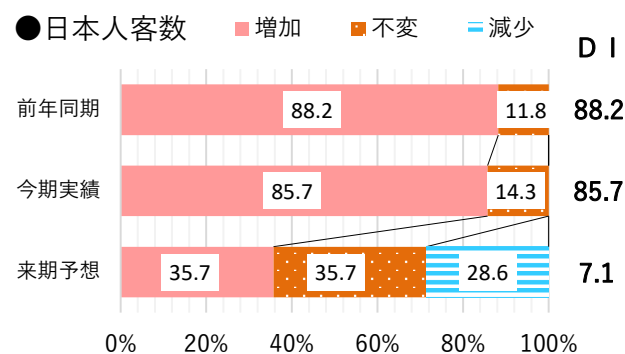
今期の利用客数DIは100.0で、前年同期と比べ17.7ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



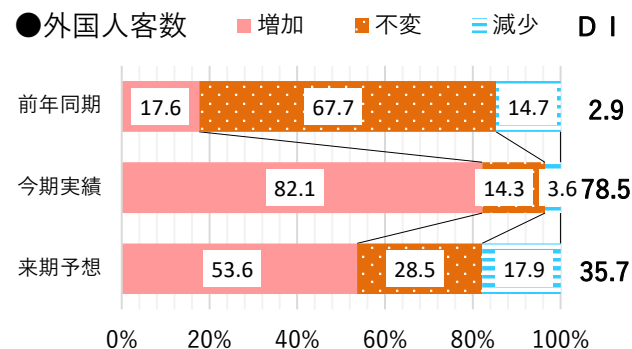
今期の日本人客数DIは85.7で、前年同期と比べ2.5ポイント低下しました。

来期は、日本人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは78.5で、前年同期と比べ75.6ポイントと大幅に上昇しました。

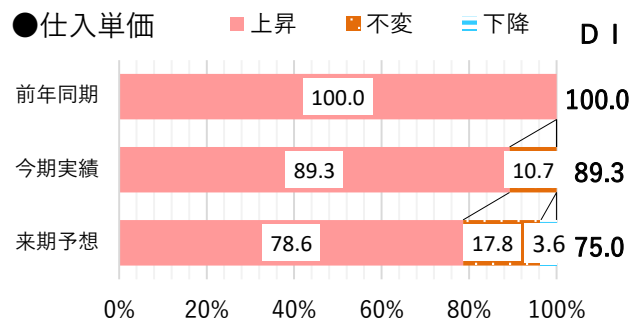
来期は、外国人客数の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは89.3で、前年同期と比べ10.7ポイント低下しました。

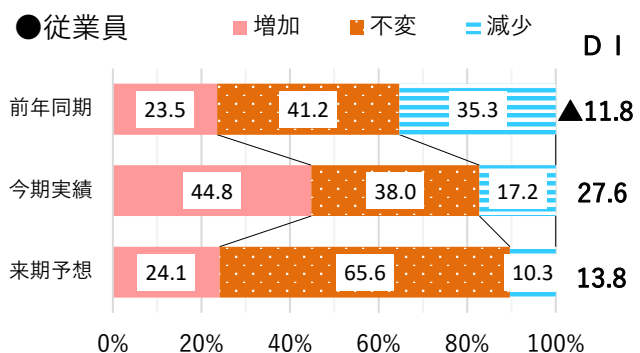
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



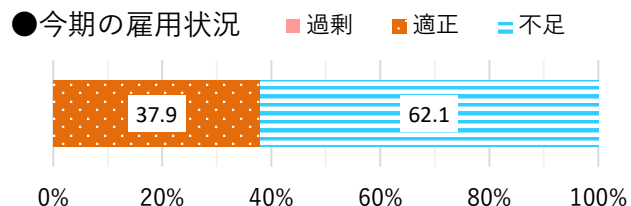
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは27.6で、前年同期と比べ39.4ポイントと大幅に上昇しプラスに転じました。

来期は、従業員数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は37.9%、不足していると回答した企業の割合は62.1%でした。



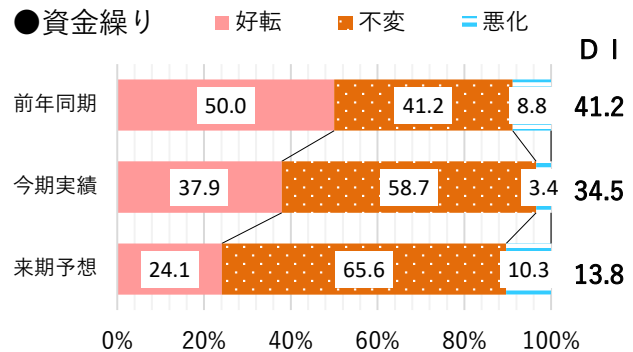
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、不足している」という回答で、31.0%を占めました。回答全体では6割強が従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	4
	不足	9
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	5

資金繰り、設備投資

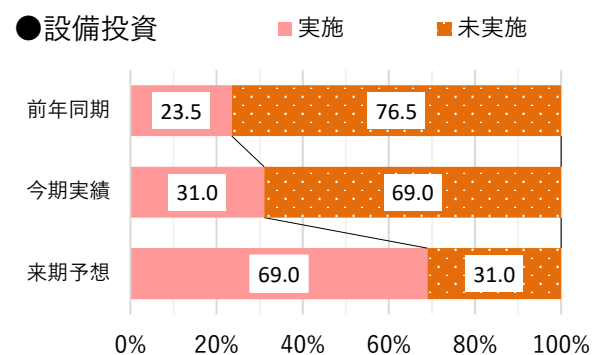
今期の資金繰りDIは34.5で、前年同期と比べ6.7ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は31.0%で、前年同期と比べて7.5%増加しました。投資内容は、1位が「サービス設備」、
「付帯施設」(同位)、2位が「土地」、
「車両運搬具」、「O A 機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は69.0%で、大幅な増加を予想しています。

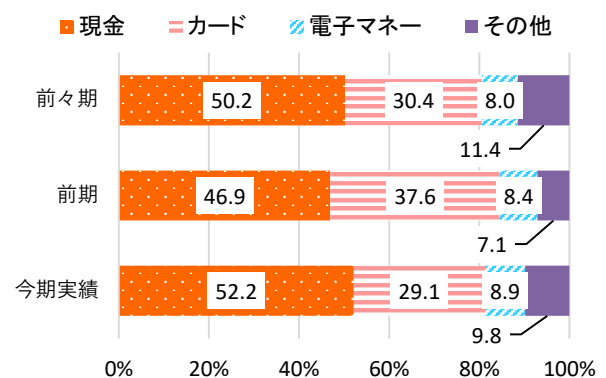


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で52.2%、2位がカードで29.1%、3位が電子マネーで8.9%、4位がその他で9.8%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、銀行振り込み、掛け売り、クーポン券、ギフトカード、小切手、QRコードです。

●今期利用客の決済方法(%)

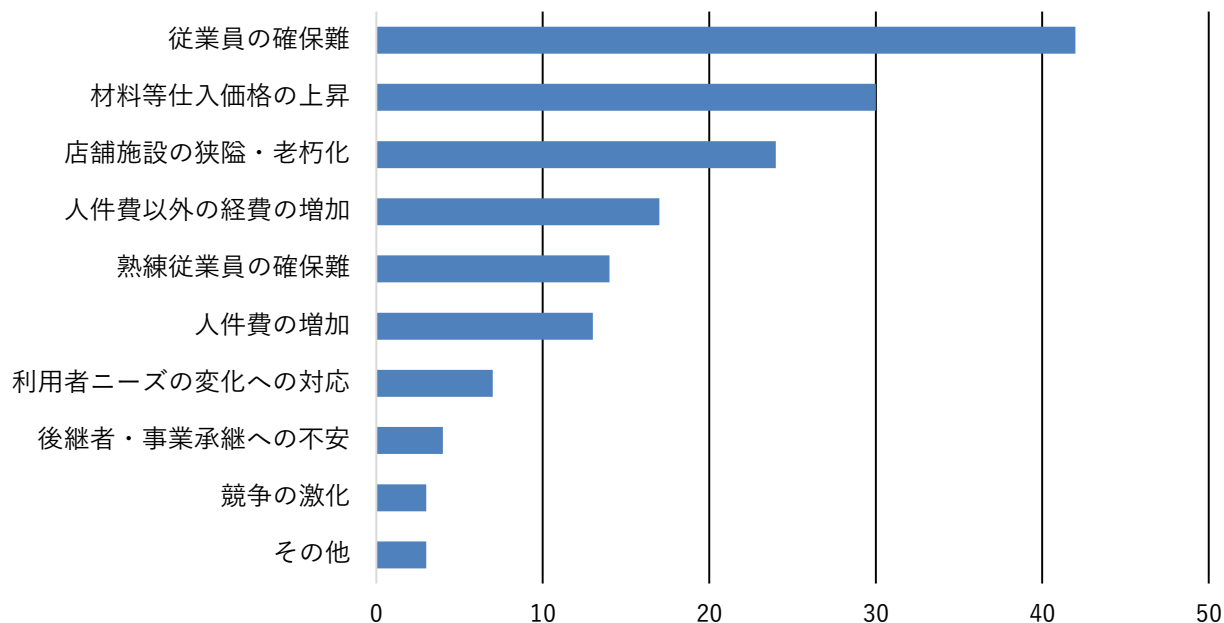


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は79.4%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「店舗施設の狭隘・老朽化」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド需要の回復が大きく、売上は大幅に好転した。物価高騰により仕入価格等経費が増加した。派遣社員を採用し人材不足を補っている。最低賃金改定に合わせ、求人の時給を引き上げる。(ホテル)
- 本格的にコロナ禍が明け、需要が増加した。仕入価格は高騰している。前述2点に伴い販売価格を引き上げた。人員は常に不足している。(ホテル)
- 国内旅行需要は回復したが、離職者の増加、人員減によりニーズに応えられていない。(ホテル)
- インバウンドの回復と旅行支援により、売上が増加した。(ホテル)
- 原価と人件費が大幅に上昇しており、大変な状況だ。(ホテル)
- 今期は順調だが、来期は見通せない。(ホテル)
- 利用客数は増えたが、仕入価格の増加と人材確保が課題だ。(コテージ・ペンション)
- 利用客は増加したが、暑さのため、利益率の低い一部のメニューに注文が偏った。また、仕入額の増加分を販売価格に転嫁できなかった。(飲食店)
- 自然環境の変化により、季節の旬の品物が変わってきており、仕入れに影響している。(飲食店)
- インバウンド、特に韓国人観光客の動きが大きく、売上の増加につながっている。(飲食店)
- インバウンド、国内の団体客が増えてきた。(飲食店)
- 昨年度より仕入価格が増加しているが、販売料金も引き上げており、利益は昨年より増加している。最低賃金の引上げ分をカバーできるだけ売上を伸ばしたい。(土産品)
- コロナ禍による旅控えが解消され、海外客を中心に観光客が増加し、売上額も増加した。(土産品)
- コロナ禍前の水準には届かないものの、家族連れやインバウンドの客数が回復した。(土産品)
- 認知の拡大と新事業の稼働により売上が増加した。(土産品)
- 観光シーズンのため好況だった。(土産品)
- コロナ禍が終息し、レジャー客やインバウンドの利用が増えた。利用料金を引き上げた。(レンタカー)
- 中国、韓国、台湾、インドなどインバウンドが増えたが、秋になり日本人客が増えた。(船舶貸渡業)

[来期の業況について]

- インバウンド需要の更なる増加が見込まれる。稼働は大きく変わらないが、宿泊単価の上昇による業況の好転を見込む。物価高騰に伴い、経費が増加する。時給の見直し等を進め人材確保に務める。(ホテル)
- 前年よりも需要が高く、館内の工事もないため売上の増加を見込む。人材の確保が急務だ。(ホテル)
- 中国人観光客の回復を見込むが、人手不足の深刻化と仕入単価の上昇が懸念される。(ホテル)
- インバウンドの増加が続く。(ホテル)
- インバウンドの微増を見込む。人材不足が続く。(コテージ・ペンション)
- 原価や経費の高騰が続く。(コテージ・ペンション)
- 中国の動き次第で大きく変わると思われるが、団体ツアーが解禁されなければ、今期同様売上の増加傾向が続くだろう。仕入単価の上昇が続く中で10月から最低賃金が上昇し、厳しい面は多々あるが、今期の動きが続けば利益は確保できる。(飲食店)
- 外国人客数が増加すると、日本人客や地元の方が来店しなくなるため、売上は減少を見込む。(飲食店)
- DMの作成や価格設定に苦労している。年末にかけての人材確保も難しい。(飲食店)
- 客数の増加を見込む。(飲食店)
- 引き続き海外からのツアー客や国内客の増加が見込まれる。(土産品)
- 11月以降は観光シーズンが終わり、売上が減少する。(土産品)
- 閑散期のため、客数が大幅に減少すると思われる。(土産品)
- 店舗移転に伴い、売上の大幅増を見込む。(土産品)
- 認知拡大に努め、売上の増加を目指す。(土産品)
- 今期ほどの売上は見込めないだろう。(レンタカー)
- 人材不足のため早めに対処したい。(船舶貸渡業)
- 閑散期に向かうため、乗船客数、売上共に今期比で減少が見込まれる。(水運業)